

二〇二〇年度

# 適性検査Ⅰ

## 注意

- 1 問題は①のみで、3ページにわたって印刷してあります。
- 2 検査時間は五十分で、終わりは午前九時五十分です。
- 3 声を出して読むはいけません。
- 4 答えは全て解答案紙に明確に記入し、解答案紙だけを提出しなさい。
- 5 答えを直すときは、きれいに消してから、新しい答えを書きなさい。
- 6 **受検番号**を解答案紙の決められたらんに記入しなさい。

共立女子第二中学校

1 次の文章を読んで、あとの問題に答えなさい。(本文には一部改めた

ところがあります)

いつの時代も、読書は素晴らしいものです。思考力を伸ばし、想像力を豊かにし、苦しいときも前進する力をくれる。自己を形成し、人生を豊かにするのに欠かせないのが読書です。その価値はずっと変わらないのですが、あえて「いまこそ」と言いたいと思います。

「本を読まなくなった」とはついぶん前から言われていることです。もう耳にタコができているという人もいるでしょう。

それで耳が痛いというならまだいいですが、「それがどうかしましたか？」と聞き直っている人があまりにも多い印象です。

先日、恐ろしいデータを目にしました。「読書時間ゼロ」の大学生が過半数を超えた、というものです(第53回全国大学生生活協同組合連合会による学生生活実態調査。53・1%が1日の読書時間を「ゼロ分」と回答)。

大学で<sup>\*1</sup>教鞭きょうべんをとっている者としてうすうすわかっていたことですが、数字を見るとやはり衝撃でした。理系の学生が本ではなく論文を読んでいる、実験や計算に多くの時間を使っているというのならまだ理解できますが、文系の学生も本を読まないというのですから驚きです。

では実際、本を読まずに、何をしているのでしょうか？

読書をしていないとはいっても、文字を読んでいるわけではないわけではありませ

ん。むしろ、大量に読んでいる。その多くはインターネットだったり、SNSだったりするわけです。

「本を読まなくても、ネットでいいじゃん」と言う人はいるかもしれませんが、

「すべてネットの中にあるではないか」と言われれば、まあ、その通りです。毎日膨大な量の情報が追加されているネット上には、最近のニュースだけでなく古今東西のあらゆる物語や解釈や反応が含まれています。ネットの「青空文庫」では、著作権の切れた作品を無料で読むこともできます。

ですから、わざわざ本を読まなくてもネットでいいじゃないかという意見も見当違いなものではありません。

しかし、ネットで読むことと読書には重大な違いがあります。それは「向かい方」です。

ネットで何か読もうというときは、そこにあるコンテンツにじっくり向き合うというより、パッパッと短時間で次へいこうとします。より面白そうなもの、<sup>\*2</sup>アイキャッチ的なものへ視線が流れますね。ネット上には大量の情報とともに気になるキャッチコピーや画像があふれています。それで、ますます一つのコンテンツに向き合う時間は短くなってしまふ。

最近音楽もネットを介して聴くことが多くなっていますが、ネットでの「向かい方」ではイントロを聴いていることができません。我慢できなくて次の曲を探しはじめてしまいます。そこで、いきなりサビから入るよ

うな曲のつくり方をしていという話を、あるアーティストの方から聞き  
ました。

現代人の集中力が低下していることを示す研究もあります。2015年  
にマイクロソフトが発表したところによると、現代人のアテンション・ス  
パン(一つのことに集中できる時間)はたった8秒。2000年には12秒  
だったものが4秒も縮み、いまや金魚の9秒より短いと言います。

これは間違いなくインターネットの影響でしょう。とくにスマホが普及  
して、スマートフォンで常にいろいろな情報にアクセスしたり、SNSで  
常に短いやりとりをしたりするようになったことで、ある意味で「適応」  
した結果です。

このように<sup>①</sup>ネット上の情報を読むのと、読書とは行為として全然違い  
ます。

ネットで文章を読むとき、私たちは「読者」ではありません。「消費者」  
なのです。こちらが主導権を握っていて、より面白いものを選ぶ。「これ  
はない」「つまらない」とどんどん切り捨て、「こっちは面白かった」と消費  
していく感じですよ。

消費しているだけでは、積み重ねがでにくい。せわしく情報にアクセ  
スしているわりに、どこかフワフワとして何も身につけていない。そのと  
きは「へえ」と思ったけれど、すぐに忘れてしまいます。浅い情報は常に  
いくつか持っているかもしれませんが、「人生が深くなる」ことはありません

ん。

これは情報の内容やツールの問題というより、「構え」の問題です。

著者をリスpektして「さあこの本を読もう」というときは、じっくり  
腰を据えて話を聞くような構えになります。著者と二人きりで四畳半の部  
屋にこもり、延々と話を聞くようなものです。ちよつと退屈な場面があつ  
ても簡単に逃げるわけにはいきません。辛抱強く話を聞き続けます。

相手が天才的な作家だと、「早く続きが聞きたい」と言って寝る間も惜し  
んで読書をすることもあるでしょう。しかしドストエフスキーと二人きり  
になつて3か月も話を聞かされ続けたりしたら、大概の人は逃げ出した  
くなります(やってみると最高なのですが)。実際、みんな逃げ出しつつある  
わけです。

逃げ出さずに最後まで話を聞くとどうなるか。それは「体験」としてし  
っかりと刻み込まれます。読書は「体験」なのです。実際、読書で登場人  
物に感情移入しているときの脳は、体験しているときの脳と近い動きをし  
ているという話もあります。

体験は人格形成に影響します。<sup>②</sup>あなたもきつと「いまの自分をつくつ  
ているのは、こういう体験だ」と思うような体験があるでしょう。

辛く悲しい体験も、それがあつたからこそ人の気持ちが変わるようにな  
ったり、それを乗り越えたことで強さや自信になったりします。大きな病  
気になつたり命の尊さを感じる出来事があれば、いまこの瞬間を大事に思

えるようになるなど、人格に変化をもたらします。

自分一人の体験には限界がありますが、読書で疑似体験をすることもできます。

読書によって人生観、人間観を深め、想像力を豊かにし、人格を大きくしていくことができます。

(齋藤孝『読書する人だけがたどり着ける場所』による)

〔注〕 \*1 教鞭をとっている——教授として教えている。

\*2 アイキャッチ的なもの——人の注意をひきつけるもの。

〔問題1〕「①ネット上の情報を読むのと、読書とは行為として全然違

ます」とありますが、それはどういうことですか。本文中の言葉を使っ

て、五十字以上六十字以内で説明しなさい。

なお、や。や「なども、それぞれ字数に数え、一まずめから書き始めること。

〔問題2〕「②あなたもきつと『いまの自分をつくっているのは、こうい

う体験だ』と思うような体験があるでしょう」とありますが、あなたの

場合、これまでのどういう「体験」が、どういう「いまの自分をつくっ

てい」ますか。この文章の内容をふまえて、書きなさい。

次の「**きまり**」にしたがって、三百字以上四百字以内でまとめなさい。

〔きまり〕

○ 最初の行から書き始める。

○ 各段落の最初の字は一字下げて書く。だんらく

○ 段落をかえたときの残りのまずめは字数として数える。

○ 、や。や「なども、それぞれ字数に数える。ただし。と」

は同じまずめに入れ、一字と数える。